

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

Improving Safety

安全への配慮

交通事故のないクルマ社会へ



はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

Improving Safety

安全への配慮

より安全なクルマ社会の実現のために

日産が目指しているのは、運転する人だけでなく、歩行者や他車の乗員を含めたモビリティ社会に関わるすべての人びとに価値を提供し、“走る楽しさと豊かさ”を実現するクルマづくりです。現実の世の中（リアルワールド）で起こりうる自動車事故のリスクの回避、万一の事故に際して被害を最小限にとどめる技術の改良・開発など、クルマの安全性の向上に全力で取り組んでいます。同時に、ドライバーの安全意識向上のための啓発活動やITS*を活用した運転環境の改善など、自動車メーカーとしてさまざまな角度から、より安全なクルマ社会の実現を目指しています。

※ITS：Intelligent Transport Systems（高度道路交通システム）

安全を基本としたクルマづくり

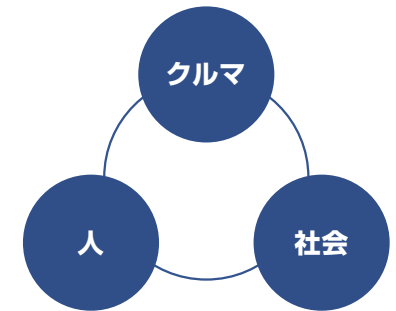
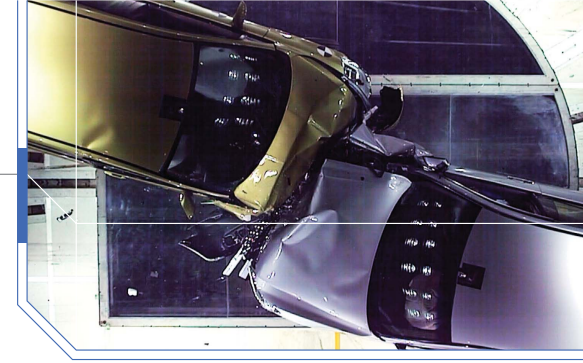
安全を支える確かな技術をリアルワールドに

世界中で毎年約100万人もの人びとが、交通事故により尊い命を失っています。日本における2007年の事故死亡者数は5,744人を数え、1953年以来初めて6,000人を下回ったものの、今後さらなる減少に向けた取り組みが求められています。

日産は、リアルワールドセーフティという考え方のもと、「2015年までに日産車の関わる日本での死亡・重傷者数を半減させる（1995年比）」という目標を掲げ、安全なクルマづくりに取り組んでいます。すでに、日本において日産車が関与した事故の1万台あたりの死亡・重傷者数は、2006年時点で1995年比の41%まで減少してきており、着実に成果を上げています。（（財）交通事故総合分析センター調べ）

また、リアルワールドで起きている交通事故データをグローバルに収集し、発生原因や傾向の科学的な分析を行っています。そしてさまざまな実験を通して課題を明確にし、安全技術の開発・改善を進めています。

私たち日産は、より安全なクルマ社会の実現に向け、「近い将来において死亡・重傷事故をゼロにすること」を究極の目標としています。



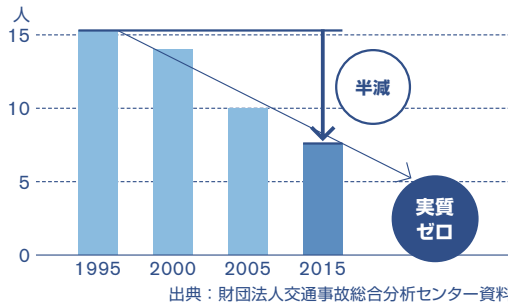
<http://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/>

安全の取り組みに関する詳しい情報は、上記のウェブサイトに記載しています。あわせてご覧ください。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

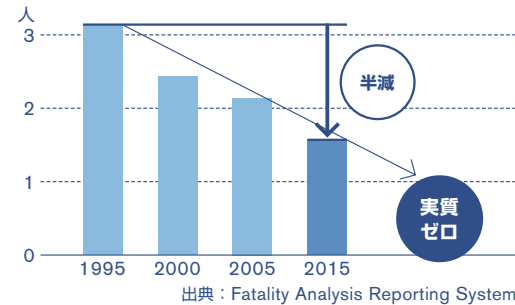
日本

日産車1万台あたりの死亡・重傷者数



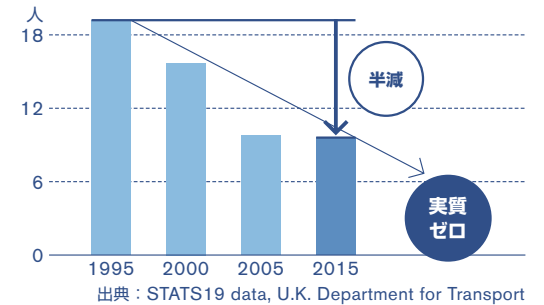
米国

日産車1万台あたりの死者数



欧州(英国)

日産車1万台あたりの死亡・重傷者数



「セーフティ・シールド」の視点から安全技術を開発

日産では、「セーフティ・シールド」という独自の安全に対する考え方に基づき、クルマがおかれている状態を「危険が顕在化していない」状態から「衝突後」に至るまでの6つの段階としてとらえ、「クルマが人を守る」技術の開発に取り組んでいます。

開発にあたっては、運転の主体となる人の視点に立ち、それぞれの状態において発生する危険要因から、さまざまなバリア機能を働かせ、少しでも危険に近づけないよう、ドライバーの運転を支援することに主眼をおいています。さらに万一衝突の避けられない状況に遭遇した場合でも、クルマ自体のシステムが作動し、被害を軽減させる技術を提供します。



SAFETY SHIELD

危険が顕在化していない

- ディスタンスコントロールアシスト (インテリジェントベダル)
- インテリジェントクルーズコントロール (全車速追従・ナビ協調機能付)
- アクティブAFS
- アラウンドビューモニター

いつでも安心して運転できるよう
ドライバーをサポートする技術

危険が顕在化している

- レンデバーチャープリベンション
- レンデバーチャワーニング
- 4輪アクティブステア

危険な状態になりそうなときも
安全な状態に戻すよう
ドライバーをサポートする技術

衝突するかもしれない

- ABS (アンチロックブレーキシステム)
- ブレーキアシスト
- VDC (ビークルダイナミクスコントロール)

衝突が避けられない

- インテリジェントブレーキアシスト
- 前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト

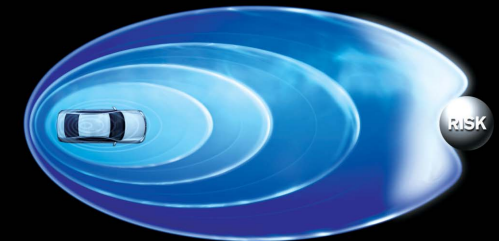
衝突

- ソーンボディ
- SRSエアバッグシステム
- アクティブヘッドレスト
- ポップアップエンジンフード

万一衝突が避けられないときに
被害を最小限にとどめる技術

衝突後

- ヘルプネット



はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

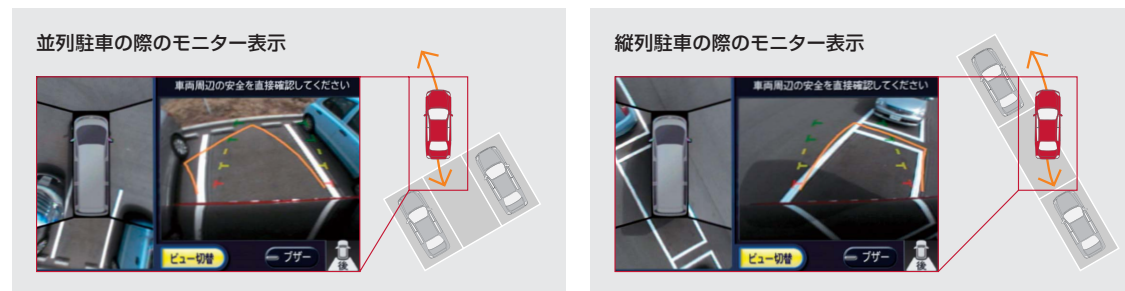
新技術紹介

いつでも安心して運転できるようドライバーをサポートします

アラウンドビューモニター

車両の前後左右4カ所に取り付けたカメラからの映像を合成し、自車を中心に車両上方から見下ろしたような映像をナビゲーションモニターに表示するシステムを世界で初めて実用化しました。これによりパーキングスペースと自車の位置関係を簡単に把握できるので、縦列駐車などのコース取りや車庫入れもスマートに行うことができます。

日本において2007年10月に発売した「エルグランド」に世界で初めて搭載し、北米においても2007年12月に発売した「インフィニティ EX35」に搭載しています。



ディスタンスコントロールアシスト(インテリジェントペダル) / インテリジェントクルーズコントロール(全車速追従・ナビ協調機能付)

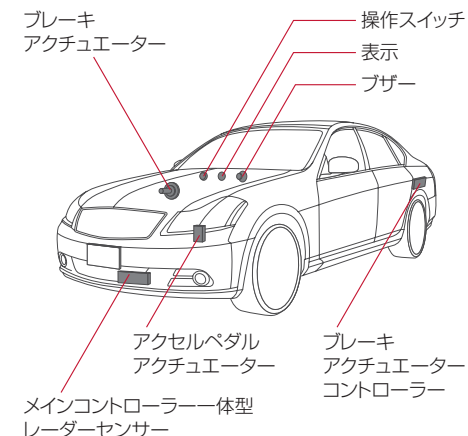
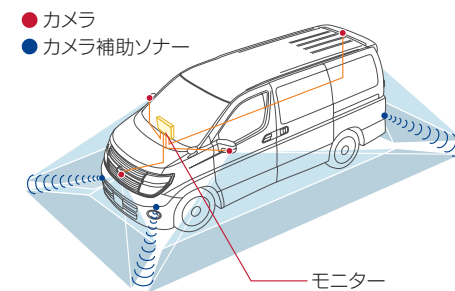
先行車両との車間距離をレーダーセンサーによって検出し、先行車との車間距離や相対速度に応じてシステムがブレーキ制御やペダル操作をサポートし、ドライバーの車間距離の維持を支援する世界初の技術です。たとえば先行車に近づいたとき、ドライバーがアクセルペダルを戻すとシステムが滑らかにブレーキをかけて減速します。また、ドライバーのブレーキ操作が必要とシステムが判断すると表示と音でドライバーへ報知するとともに、アクセルペダルを戻す方向に力を発生させ、ブレーキペダルへの踏み替えを支援します。

2007年12月に日本で販売を開始した「フーガ」にはこのシステムに加え、ナビゲーションシステムからの情報をもとに、前方のカーブの大きさに応じて緩やかに減速し、カーブ路を出て直線路になると、再びドライバーが設定していた車速まで滑らかに加速する、世界初のナビ協調機能を追加した「インテリジェントクルーズコントロール(全車速追従・ナビ協調機能付)」も実用化し、搭載しています。



<http://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/INTRODUCTION/COMFORTABLE/>

ほかに、アクティブAFS、サイドブラインドモニターなどがあります。詳しくは、上記のウェブサイトをご覧ください。

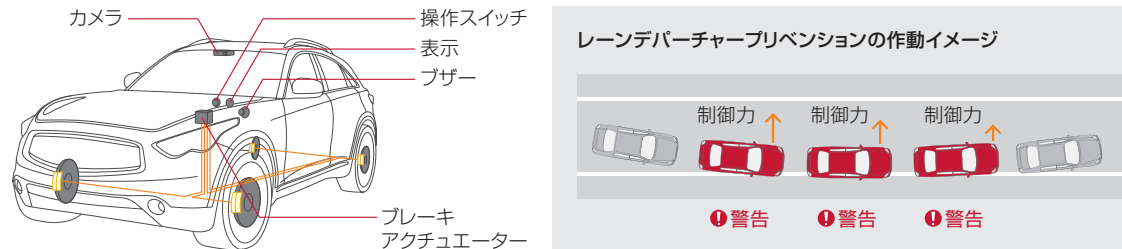


はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

危険な状態になりそうなときも安全な状態に戻すようドライバーをサポートします

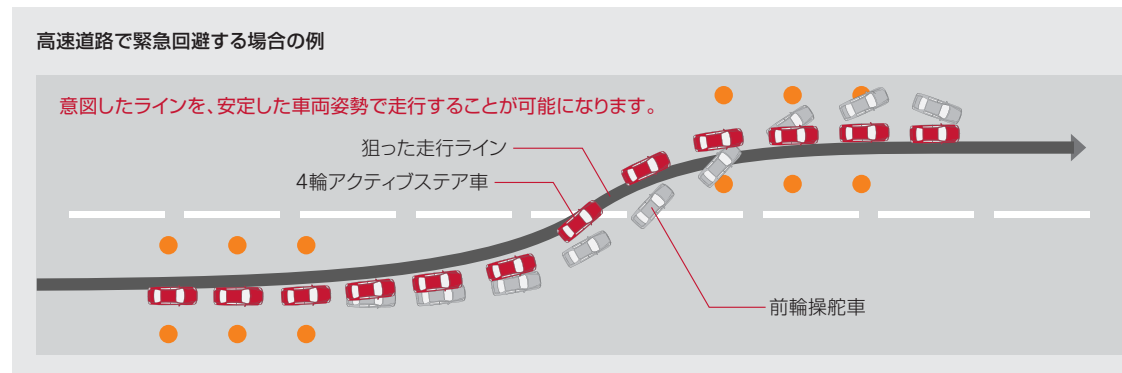
レーンデパーチャープリベンション

レーンデパーチャープリベンションは、ドライバーが車両の車線逸脱を防ごうとする操作を支援するシステムです。ルーフコンソール内に配置されたカメラで、自車前方のレーンマーカースとの相対位置を検出し、車両が車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断した場合は、インストルメントパネルへの表示とブザー音で警報しつつ、車両の向きを変える力を発生させて車線の逸脱を回避するドライバーの操作を支援します。



4輪アクティブステア

4輪アクティブステアは、状況に応じて4つの車輪すべての舵角をコントロールします。「フーガ」に採用したリアアクティブステアをベースに、前輪アクティブ操舵機能を追加したもので、高速での安定性と応答性向上および低速でのステアリング操作負荷を軽減します。たとえば、高速道路で緊急回避する場合など、ドライバーが意図したラインを安定した車両姿勢で走行可能にします。また、車速に応じてギア比を変え、ステアリング操作の負荷を軽減しました。駐停車する際のステアリング操作量では、従来比約30%の低減を可能にしています。



<http://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/INTRODUCTION/RECOVER/>

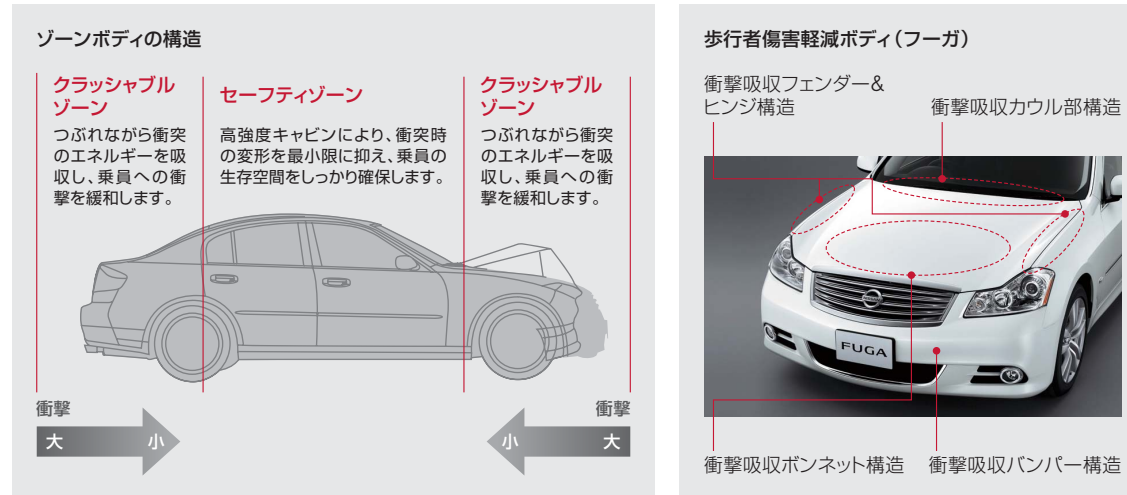
ほかに、レーンデパーチャーワーニングなどがあります。詳しくは、上記のウェブサイトをご覧ください。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

万一衝突が避けられないときに被害を最小限にとどめます

ゾーンボディ

日産のゾーンボディは「クラッシュアブルゾーン（衝撃吸収ボディ）」で衝突エネルギーを吸収し、「セーフティゾーン（高強度キャビン）」で乗員を守ります。構造については各国の安全基準に適合させるだけでなく、実際の事故分析結果に基づき、つねに社内基準の見直しを図っています。また、歩行者との衝突時に歩行者と触れる部品を変形・脱落しやすくすることで、衝突エネルギーを吸収して傷害の軽減を図る「歩行者障害軽減ボディ」を採用しています。



ポップアップエンジンフード

ポップアップエンジンフードは、歩行者がクルマと衝突したときに受ける頭部への衝撃を緩和する技術です。衝突の際にエンジンフードの後端を瞬時に持ち上げることで、エンジンフードとフード下の部品の間空間をつくり、頭部への衝撃を和らげます。2007年10月発売の「スカイライン クーペ」から搭載が始まっています。



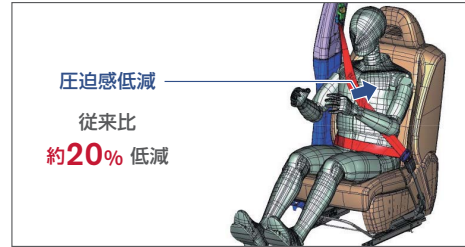
<http://www.nissan-global.com/JP/SAFETY/INTRODUCTION/UNAVOIDABLE/>

ほかに、インテリジェントブレーキアシスト、前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト、SRSカーテンエアバッグ、アクティブヘッドレストなどがあります。詳しくは、上記のウェブサイトをご覧ください。

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

低フリクションシートベルト

シートベルトの装着は、SRSエアバッグなど他の安全装置の効果を高めるためにも非常に重要です。日産は、シートベルトの着用促進の取り組みをこれまでも積極的に進めてきました。日産の低フリクションシートベルトは、ウェビング（シートベルトの帯部分）をやわらかくすることで、引き出し時の抵抗を従来比で約10%低減し、シートベルトを引き出すときに必要な力を低減させました。同時に、シートベルト着用時の圧迫感を抑え、快適性を向上させたことで着用促進に貢献します。



クルマ社会への取り組み

社会との幅広い連携を通して、安全なモビリティ社会を創造

日産はより安全なクルマ社会の実現を目指して、クルマの安全性を向上させるさまざまな技術の開発に取り組んでいます。さらに、クルマ単独では対処が難しい見えにくい相手（出会い頭や歩行者など）に対応するため、官公庁や大学、他企業とも広く連携し、ITSを活用した実証実験を進めています。また、ドライバー・歩行者に対する交通安全活動などにも積極的に取り組み、死亡・重傷者数をゼロにすることを目指しています。

ITSを利用した交通事故低減と渋滞緩和を目指す「SKYプロジェクト※」

日産は2006年10月から神奈川県において、「人」「道路」「車両」を情報でつなぐITSを活用し、交通事故低減や渋滞緩和への貢献を目指した「SKYプロジェクト」の実証実験を行っています。SKYプロジェクトは、道路上にある通信設備などのインフラとクルマを連携させ、周辺車両の状況や自車を取り巻く交通環境の情報を利用して、クルマ単独では対応が難しい見えにくい相手に対する交通事故の低減を目指しています。また、カーウイングス会員の車両およびタクシーの走行情報を収集し、日産独自の高度なロジックを用いて加工した交通情報を利用して、従来よりもさらに精度を高めた目的地最速ルート



はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

ドライバーへ提供し、交通渋滞の緩和を促進します。この実験の特徴は、一般のお客さまに日常の使用過程でシステムの受容性を評価していただくもので、現在2,000人以上の参加を得て行われています。

※SKYプロジェクト(スカイプロジェクト) : Start ITS from Kanagawa, Yokohamaプロジェクト

ITSによる安全運転支援、事故防止技術への取り組み

日産は、SKYプロジェクトの発展に向けた、さまざまな実験に取り組んでいます。2007年3月には、クルマと信号機を通信でつなく、信号機協調ITSの検証実験を日産のテクニカルセンター構内で開始しました。この実験では、道路横断歩行者優先の信号機を活用した歩行者事故低減のほか、信号情報注意喚起システムの搭載により信号見落としが原因の交差点事故を低減する、といった可能性について研究しています。

また、クルマやそのドライバーと、歩行者が所持する携帯電話を通信させ、クルマ単独では対応が難しい「見えにくい場所にいる歩行者」に対する交通事故の低減を目指すシステムを開発しています。

さらに、寒冷地でのスリップ事故低減を目指した、スリップ地点情報提供システムを開発。2007年11月からの5ヵ月間、北海道警察本部の協力を得て、札幌市周辺に住むカーウイングス会員参加のもと実証実験を行いました。このシステムは、走行している車両のABS(アンチロックブレーキシステム)が作動した場合にその情報をカーウイングスの通信によってセンターで収集し、その周辺を走るクルマのナビ画面上にスリップ地点として表示し、あわせて音声で注意喚起します。また、北海道警察本部の協力を得て、冬季事故地点情報も同様にドライバーへ提供しました。

このほかにも、国土交通省の「先進安全自動車推進計画」に基づき、車両間の相互通信(車車間通信)を利用した先進安全自動車「日産ASV-4」を開発しました。日産ASV-4は、車車間通信を用いた注意喚起システムによって、出会い頭事故などの相手が見えにくい状況においても、ドライバーがいち早く危険を回避するために行動することが可能となります。

飲酒運転根絶に向けた技術開発

飲酒運転によって引き起こされる事故は、世界的にその深刻度が年々増えています。日産は飲酒運転の根絶に向けて、ドライバーに飲酒したら運転しないよううながす機能や、さまざまなアルコール検出手段と飲酒運転を防止する技術の開発に積極的に取り組んでいます。

日産が開発した飲酒運転防止コンセプトカーは、クルマがドライバーの状態を評価し、飲酒運転をしている可能性があるかと判断した場合に、必要な注意をうながすための検出方法と報知手段を備えています。



携帯電話から歩行者を検知するシステムの実証実験

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

アルコールの検出には、アルコール臭気センサーをシフトレバーに組み込み、ドライバーがレバーに触れた際に手の平の汗に含まれるアルコールを検出。アルコールが検知された場合、音声とカーナビ画面への表示によってドライバーへ警報するとともにシフトロックし、クルマを発進させないようにうながします。また、車室内に配置したアルコール臭気センサーによってアルコールが検知された場合、音声とカーナビ画面への表示により警報を行います。

また、メーター内に装備したカメラによってドライバーの顔をモニターします。居眠り状態など飲酒運転の可能性があると判断した場合、音声とカーナビ画面への表示によって警報するほか、シートベルトを巻き上げるなどして、より強く警報を行います。

日産は、本コンセプトカーによって得られた知見から、さまざまなアルコール検出手段と警報システムについて技術開発と検証実験を進めています。

飲酒運転の根絶に向けたさまざまな取り組み

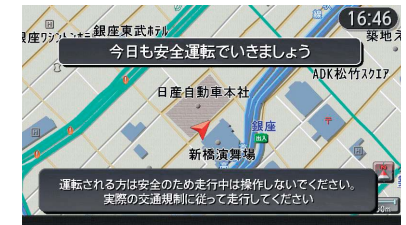
日産は、飲酒運転に対するさまざまな取り組みを積極的に推進しています。2007年8月から2008年1月には、福岡県北九州市、栃木県県庁および上三川町、神奈川県厚木市の各自治体と連携し、エンジン始動時にドライバーの呼気中のアルコール濃度を計測し、規定値を超える場合にはエンジンを始動できないようにする装置を日常業務で使用するクルマに装着し、使い勝手や検出の信頼性などについてモニター調査をトライアルで実施しました。

さらに、産業医科大学産業保健学部（北九州市八幡西区）とともに、飲酒により体内に含まれるアルコールが、生理・心理・行動にどう影響するかを調べる共同研究を実施。本研究では、アルコールによる認知ミス、判断ミス、操作ミスがどのように発生するかを解明することによって、飲酒による運転操作の乱れを早く正確に検出する技術の精度向上につなげていきます。

また、ドライバーに「飲酒したら運転しない」ようにうながすため、カーウイングスナビゲーション（HDD方式）の画面上に、夕刻から夜間（17:30～翌5:00）にエンジンを始動させると約5秒間「お酒を飲んだら、運転はやめましょう」というメッセージを表示させる機能を付加しました。早朝から日中（5:00～17:30）についても、安全運転をうながすメッセージを表示する機能を持たせています。



運転席アルコール臭気センサー



安全運転をうながすメッセージをナビゲーション画面に表示

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

地域に根ざした交通安全啓発活動「ハローセーフティキャンペーン」

日産は、春・秋の全国交通安全運動と夏休み期間中の年3回、交通安全活動「ハローセーフティキャンペーン」を毎年実施しています。2007年度は、子どもと高齢者向けの安全啓発に加えて「飲酒運転の根絶」「日常生活にある危険に気づかせ、回避能力が身につく交通安全教育」「シートベルト、チャイルドシートの正しい着用」を重要課題としました。親子で約束を交わし、お子さまとの約束を思い返すことで飲酒運転防止につなげる「おやくそくコースター」を(財)全日本交通安全協会に14万個提供し、全国1,400地区で行われたイベントなどで紹介しました。

また、後席ベルト着用率低迷の現状を踏まえ、シートベルトのタンクとバックルに貼り付ける「シートベルト着用促進シール」を製作し、6都道県に計75,000枚を配布しました。さらに、内閣府などの主催による交通安全フェアに、夕暮れ時・夜間の視認性を高める反射材と、子どもの登下校時における防犯性を高める携帯型防犯ブザーを組み合わせた「反射材ストラップ(防犯ブザー付)」12,000個を提供しました。また、夕暮れ時のヘッドライト早期点灯を呼びかける「夕方はみんなでピカリ」を実施し、関係団体とともに視認性向上の啓発活動を行いました。

中国自動車技術研究センターと歩行者保護共同研究を実施

日産は2005年7月から2年半にわたり、中国自動車技術研究センター(CATARC)と「歩行者保護共同研究プロジェクト」を実施してきました。この研究は、これまで中国では調査されたことのないマイクロ事故データの収集・分析により、事故削減、被害軽減の対策を明確化し、歩行者保護に係る国際法規の中国での適用の妥当性を検討すると同時に、中国政府が導入を予定している歩行者保護法規の基礎をつくることを目的としたプロジェクトです。

2008年1月に開催された成果報告会では、本プロジェクトへの評価とともに、国家発展改革委員会、公安部などの関係当局より、日産の協力に対する深い謝意が表明されました。

日産はこれまでも、道路交通安全セミナー、日産セーフティドライビングフォーラム、青少年向け安全教育やイベントの開催、安全法規の作成チームへの参画などに取り組んでおり、今後も中国での交通事故被害者の低減に向けた貢献活動を推進していきます。



夕暮れ時のヘッドライト早期点灯を呼びかける啓発グッズを製作



「歩行者保護共同研究プロジェクト」の成果報告会

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

子どもたちを事故から守る、米国での安全推進活動

米国では自動車事故が子どもの最大の死因であり、2006年の統計によると、米国全土で毎日6人の子どもたち（15歳未満）が交通事故で亡くなっています。これは転落や水難、火災、中毒、銃などによる事故死者の合計を上回る数字です。原因のひとつが、チャイルドシートの8割以上が不適切な使い方をされているという現実です。北米日産は自動車メーカーとして、こうした被害を少しでも軽減させるため、「クエスト・フォー・セーフティ」や「スナッグ*・キッズ」というプログラムを通じて、安全確保に取り組んできました。

「スナッグ・キッズ」は日産やインフィニティのクルマをご利用の皆さまに、それぞれの車種に合うチャイルドシートの情報を提供する、独自のオンライン・ガイドです。日産やインフィニティの各ウェブサイト上で、さまざまなメーカーによるチャイルドシートのリストや、正しい装着の仕方に関するアドバイスなどを提供しています。「クエスト・フォー・セーフティ」プログラムは、チャイルドシートの安全性への関心が低い地域の保護者への啓発活動として、日産が1997年から実施しているものです。英語とスペイン語による無料の安全セミナーを開催し、チャイルドシートの正しい使い方を保護者に説明したり、チャイルドシートを選ぶ際の簡単な参考資料として「クエスト・フォー・セーフティ・リファレンス・カード」を配布しています。

*スナッグ：ジャストサイズで居心地が良いこと

飲酒運転撲滅に取り組む、チャリティのためのウォーキング・プログラム

米国運輸省の高速道路安全局によると、死亡事故の41%が飲酒運転に関係しています。北米日産社は2005年から、飲酒運転の撲滅に取り組むNPOのMADD (Mothers Against Drunk Driving) が毎年実施している、「Strides for Change 5K」というウォーキング・プログラムの全米スポンサーになっています。このイベントは、飲酒運転撲滅のための呼びかけや募金活動、被害者支援、未成年者の飲酒防止をうながすことを目的に、地域社会が中心となって、5kmの距離を楽しみながらウォーキングするというものです。日産はスポンサーとして、そして子どもの安全を守る取り組みの一環としてこのイベントに参加。安全技術の資格を持つ日産社員が、チャイルドシートの使い方の実演を行ったり、ウォーキングの参加者に適切なシートを選ぶためのガイドを配布したりしています。また、全米各地の日産社員もチームを組んで歩き、募金を呼びかけています。飲酒運転撲滅を掲げるMADDと、安全への取り組みを推進する日産が協力することにより、このウォーキングは交通事故の防止に対する社会の意識向上や資金集めに役立てられています。「Strides for Change 5K」には毎年1万4,000人以上が参加し、総額180万ドル以上もの募金を集めています。日産は自動車メーカーとして、こうした啓発活動を通して、運転時の判断がどのような結果をもたらすかをドライバーにつねに意識してもらうことが重要だと考えています。



保護者にチャイルドシートの正しい使い方をうながす「スナッグ・キッズ」プログラム（米国）



飲酒運転撲滅を目指すチャリティウォーキング・プログラム（米国）

はじめに	001
CEOメッセージ	002
CSR対談	006
日産のCSR	011
日産独自のCSR推進手法 「日産CSRマネジメントウェイ」	012
日産CSR重点9分野	024
日産CSRスコアカード	027
ステークホルダー エンゲージメント2007	031
事業活動報告・ コーポレートガバナンス	032
2007年度決算概況・ 新中期経営計画「日産GT 2012」	033
コーポレートガバナンス	038
ステークホルダーへの価値の向上	046
お客さまのために	047
株主・投資家の皆さまとともに	055
社員とともに	058
ビジネスパートナーとともに	067
社会とともに	073
地球環境の保全	083
安全への配慮	114
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	126
パフォーマンスデータ	132
事業等のリスク	134
第三者意見書	135

Messages from Our Stakeholders
ステークホルダーからのメッセージ

安全な交通社会をともに築くために



MADDナショナル(米国)
プレジデント
グリーン バーチ 氏

飲酒運転の撲滅に取り組むMADD (Mothers Against Drunk Driving) は、チャリティのためのウォーキング・プログラム「Strides for Change」を毎年実施しています。北米日産会社には2007年も引き続き全米スポンサーとしてご支援いただきました。そのおかげで2007年は30を超える都市で参加者が集まり、9万マイル以上を歩きました。その一歩一歩が飲酒運転という暴力的な犯罪の被害者たちとMADDを支え、未成年者の飲酒防止に役立っています。

調査によると、飲酒運転による事故から身を守るにはシートベルトの着用がもっとも効果的とされていますが、残念ながら正しく装着されていなかったために命を落とす子どもが多いのが実情です。日産はその危険性を訴える啓発活動に多大な努力を払っています。「Strides for Change」では、チャイルドシート
の安全な使い方もお教えしています。

日産とMADDは手を携え、多くの家族が大切な子どもたちを守り、1人でも多くの命を救えるよう活動を続けています。